

学力は「ごめんなさい」にあらわれる

岸 圭介 ちくまプリマー新書 2024.8

「ごめんなさい」ということばは、同じ状況では二度と使わないことばである、と学習させる必要がある。著者はそう述べています。言葉一つをおそろかにしないことを教えてくれた本でした。

- ◆子どもと正しくコミュニケーションをとりたいのであれば、まずことばが届く人になることをめざすべき
- ◆すべてのことばは、その人をあらわすことにつながる。怖いことだが、事実。その事実への理解が「ことばの教育」を自分のものにする第一歩。
- ◆「しずかにしなさい」ということばの使い方によっては、「考えない子ども」を育ててしまうことにつながる。一見、落ち着きがないと感じられる子ども実は聞いている。大人が子どもの様子から気にかけてあげなければいけないのは、子どもが「聞くこと」をどう学習しているか。
- ◆本来、人とのコミュニケーションは「listen」であるべき。親身になって聞いてくれる人は、心地よい存在となる。だから、親は子どもが寝転がってスマホの画面を見ながら聞く習慣を築かない方がよい。それが子ども自身の「話を聞く基準」になってしまうから。